

令和8年度 全国学力・学習状況調査



— 取手市の児童生徒の学習状況について —

取手市教育委員会 指導課

令和8年4月23日(木)に全国一斉に行われた、全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。今回の結果をもとに、取手市立小中学校の児童生徒の学習状況を掲載します。

なお、この調査は学力の一部をはかるものであり、学力のすべてを示すものではありません。

※英語・質問紙調査については、学校の指定された日にオンラインで実施

国語

【小学校】

問題数 全13問

【中学校】

問題数 全15問

算数・数学

【小学校】 算数

問題数 全16問

【中学校】 数学

問題数 全16問

英語

【小学校】

実施なし

【中学校】

問題数 全26問程度

※生徒によって異なる問題を解いています。

質問紙

【小学校】 73項目

【中学校】 80項目

【調査対象】

小学校6年生、中学校3年生

【調査内容】

①教科に関する調査
(国語、算数・数学、英語)

②生活習慣や学習環境に関する調査
(質問紙)

取手市立小学校 国語の結果



成果がみられたところ

- ◎相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考える力
(話すこと・聞くこと)
- ◎話や文章の種類とその特徴について理解する力
(書くこと)

課題となったところ

- ▲学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力
(言葉の特徴や使い方に関する事項)
例) ふしぎ→不思議
- ▲引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力
(書くこと 記述式)
- ▲考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解する力
(情報の扱い方に関する事項)

今後の学校教育の中で

- ◇既習漢字を意識して使い、同音異義語や同訓異字を日常的に使い分けられるようにする。
 - 1文字につき5回書くなど機械的な練習だけでなく、苦手な漢字練習に時間をかけたり、覚えた漢字で短文を作ったりする学習も加える。
 - AIドリルの手書きの漢字練習機能を活用し、AIで出題された自身の間違いやすい漢字を中心に練習したり、一度間違えた問題を繰り返し解き直す機会を設けたりするなど、より効果が高い練習方法にシフトする。
 - 同音異義語の語句や漢字を調べ、その意味を比べる活動を取り入れる。
- ◇引用する目的を明確にして、文章から必要な語句や文を抜き出すことができるようにする。
 - 引用する際には、『出典を明記する』、『引用部分はもとの文章をそのまま書く』等、引用の仕方について確認する。
 - 引用した部分と自分の考えとの関係が分かるように区別して書くようにする。
 - 引用する目的を明確にし、引用して書いてある文章と、引用していない文章を読み比べる活動を取り入れることで、引用するよさを感じることができるようにする。
- ◇自分の考えと具体例が結び付けられるようにする。
 - 自分の伝えたいことについて友達と交流したり、自分の書いた文章について、読み手の立場に立って振り返ったりする。
 - 自分の伝えたい考えを確かめた上で、自分の考えを支える理由を複数挙げ、最も適したものを選択できるようにする。

取手市立中学校 国語の結果



成果がみられたところ

- ◎表現の効果を考えて描写する力
(書くこと)
- ◎単語の活用について理解する力
(言葉の特徴や使い方に関する事項)
- ◎必要に応じて質問しながら話の内容を捉える力
(話すこと・聞くこと)

課題となったところ

- ▲文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする力
(読むこと 記述式)
- ▲文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使う力
(例) 多数決をとる → 採る
(言葉の特徴や使い方に関する事項 短答式)
- ▲表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善を見いだす力
(書くこと 選択式)

今後の学校教育の中で

- ◇本文の叙述を基に理解し、自分の考えを形成する力を付ける。
→具体的な場面を思い浮かべながら文章を読み、文章全体の組み立てや内容を自分がどのように読み取ったのかを振り返る。
→友達と交流する中で、文章を読んで理解したことを他者に説明したり、友達の考えやその根拠などを知ったりする活動を通して、自分の考えやその根拠などを確かめたりする。その上で、自分が文章をどのように読み取ったのかを振り返ることで、自分の考えを確かなものにする。
- ◇文脈に即し、正しい漢字を書くことができるようにする。
・漢字を正しく用いる態度と習慣が身に付いているだろうか？
→他教科の学習や日常的な文章のやり取りでも意識して漢字を使うようにする。
→機械的な書き取り練習だけでなく、「へん」や「つくり」等に注目し、字形を正しく捉えたり、読みを類推したり、大まかな意味を捉えたりするようにする。
→タブレット端末を活用して文章を作成する際に、変換機能を生かし、同音異義語、同訓異字にも着目して、文脈に合わせて使い分けができるようにする。
- ◇自分の文章を振り返り、次の書く活動に生かす力を付ける。
・文章は書いたままで終わりにしていないだろうか？
→自分の書いた文章について、友達に意図が伝わったかを確かめたり、友達が効果的だと感じた表現を確認したりするなど、友達からの感想や助言をもらう。
→友達からの感想や助言を基に自分の文章を振り返り、次に文章を書く際にどのように生かすかを考える。

取手市立小学校 算数の結果



成果がみられたところ

- ◎示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて記述する力
(データの活用 思考・判断・表現)
- ◎直方体の箱の形を構成する面について理解する力
(図形 知識・技能)

課題となったところ

- ▲整数と小数の減法の計算をする力
(数と計算 知識・技能)
 - 「引く数が小数であるときの計算」
整数同士の時の計算と同じ原理、手順で計算できることを理解していない。また、繰り下がりのある筆算の仕方の理解に課題がある。
- ▲二次元の表から、条件に合う数を読み取る力
(データの活用 知識・技能)
 - 「2つの観点で分類すること」と「合計欄の理解」
条件に合うように2つの観点で分類整理することができない。また、合計欄が1つの項目について整理した数値であることの理解に課題がある。

今後の学校教育の中で

- ◇整数同士と同じ原理、手順で計算できることを理解させるとともに、結果の見積もりや計算の確かめができるようにする。
 - ・構成する単位に着目させる。
 - 構成する単位に着目し、 $5 \Rightarrow 5.00$ と見て、 0.01 が500個と捉えることで、小数も整数と同じ原理、手順で計算できることを理解できるようにする。
 - ・小数の大小関係を捉えさせる。
 - 3.76 を「3より大きく4より小さい」と見て考えることで、計算の結果の見積もりをしたり、計算の確かめをしたりする。
- ◇二次元の表を実際に作成したり、表の数値がどのような場合を表しているかを説明したりする活動を通して、二次元の表を条件に応じて読み取れるようにする。
 - ・二次元の表を作成する過程で、項目の場合分けを確認する。
 - 児童自身で項目を決め、決めた項目をもとに場合分けをする活動を取り入れることで、分類整理できるようにする。
 - ・表の数値が何を表しているか説明する活動を取り入れる。
 - それぞれの数値を説明する過程で、1つの項目のみで整理した表を扱い、その数値が合計欄と対応することを理解できるようにする。

取手市立中学校 数学の結果



成果がみられたところ

- ◎問題場面における考察の対象を明確に捉える力
(数と式 知識・技能)
- ◎データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角
形の特徴を基に説明する力
(データの活用 思考・判断・表現)

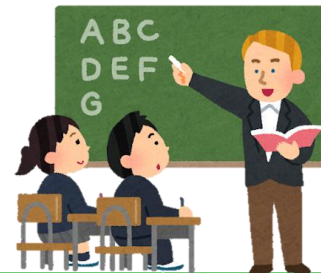
課題となったところ

- ▲数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の
方法を数学的に説明する力 (関数 思考・判断・表現)
→「表、式、グラフ(用いるもの)」「用い方」
関数領域における数学的な表現を正しく理解し、活用することができて
いない。
- ▲筋道を立てて考え、証明する力 (図形 思考・判断・表現)
→「作図から得られた事実を使った証明」
作図によって得られる事実と成り立つ事柄を区別して捉える力が身に
付いていない。

今後の学校教育の中で

- ◇表や式、グラフの用い方を説明する活動を重視し、用いるも
のに応じた数学的表現を使えるようにする。
 - ・用語や意味を正しく理解できているか？
→座標や式の値、代入など、関数領域における数学的な表現を確認し
た上で、用い方を互いに伝え合う活動に取り組むことで、数学的表
現を正しく活用できるようにする。
 - ・まとめた問題解決の方法を新たな問題に適用する。
→表現が不十分な説明を指摘し合い、より洗練された表現に高める
活動を取り入れる。
- ◇事柄が成り立つことについて、方針を立て、それに基づいて
証明することができるようにする。
 - ・作図過程における事実と成り立つ事柄を確認する。
→作図の手順を仮定、作図した結果を結論と捉えられるよう、過
程を振り返りながら、仮定と結論を確認する活動を取り入れる。
「作図から得られる事実(仮定)は？」
「作図によってどんな事柄が成り立つ(結論)の？」
 - ・方針を立ててから証明をかいているか？
→仮定から結論まで、何を、どんな性質を根拠に、どんな順序で
説明していくかという証明の方針を確認する活動を取り入れ
る。

取手市内中学校 英語の結果



成果がみられたところ

- ◎ 日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取る力 (思考・判断・表現)
- ◎ 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る力 (思考・判断・表現)
- ◎ 音声や語彙、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用する力 (知識・技能)

課題となったところ

- ▲ 社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書く力 (思考・判断・表現)
- ▲ 日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉える力 (思考・判断・表現)
- ▲ 日常的な話題について、事案や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書く力 (思考・判断・表現)

今後の学校教育の中で

- ◆ 社会的な話題について、聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文章を用いて書くことができるようにする。
 - 読んだ文章について意見を書く際、メモや思考ツール、キーワードなどを活用して自分の考えや根拠を整理するなど、順序立てて書く活動を設定する。
 - “I agree / don't agree with… because…” などの表現を用いて賛否とその理由を話した後に、話した内容を1～2文程度で書く活動を繰り返す。
- ◆ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。
 - 書く前に、テーマについてメモを基にペアでのやり取りを繰り返し、友達の考えや表現を参考に自分の考えを書く活動を設定する。
 - まとまりのある内容を書くために、because、and、so、butなどの接続詞を用いたり、he、she、it、they、などの代名詞を用いて3文程度の短い文章を書くことを繰り返す。

取手市立小中学校 児童生徒質問紙調査の結果



小学校児童質問紙の結果から



- 朝食を摂取し、同じ時刻に起床する児童の割合が高く、全国・県と比較しても同じぐらいの割合です。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と感じる児童の割合が昨年度より高く、全国・県と比較すると同じぐらいの割合です。
- ▲「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と感じる児童の割合が低く、全国・県と比較しても同じぐらいの割合です。
- ▲「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と感じる児童の割合が、全国・県と比較すると低いです。

中学校児童質問紙の結果から

- 同じ時刻に就寝したり起床したりする生徒の割合が高く、全国・県と比較しても同じぐらいの割合です。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と感じる生徒の割合が児童同様に昨年度より高く、全国・県と比較すると同じぐらいの割合です。
- ▲「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と感じる生徒の割合が低く、全国・県と比較しても同じぐらいの割合です。
- ▲「将来の夢や目標を持っている」と感じている生徒の割合が低く、全国・県と比較しても低いです。

今後の学校教育の中で

「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と感じる児童生徒の割合が低いことから、複数の教員が様々な児童生徒をみる学校づくりを推進します。また、児童生徒が相談しやすい環境づくりとして、教職員一人一人が児童生徒の気持ちに寄り添い、学校全体でチームとしての援助を行う体制の充実を図ることで、信頼関係の構築を推進していきます。

児童生徒の生活習慣と学力の関係



このような子どもほど、正答率が高い傾向にあります

※小中学生ともに同様の傾向が見られます。

- 毎日朝食を食べている児童生徒
- 人が困っているときに、進んで助けている児童生徒
- スマートフォンやタブレットで、ゲームをしたり、SNSや動画を見たりしている時間が少ない児童生徒
- 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う児童生徒
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫している児童生徒
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒
- 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝えられるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している児童生徒
- 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む児童生徒
- 友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる児童生徒



今後の学校教育の中で

「朝食を毎日食べている」「スマートフォンやゲーム機器の使用時間の厳守」など、基本的な生活習慣の定着を図ったり、「自分とは違う意見について考える」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」など、他者や地域に貢献しようとする態度を養ったりすることが、広い意味での学力向上につながると考えます。

学校教育の中では、市の特色であるアートの視点を取り入れた教育活動や探究的な学びの充実を図り、ICTの効果的な活用など、未来を拓く学びを展開し、すべての子どもの可能性を引き出す活力ある学校づくりを進めてまいります。